久木小学校区住民自治協議会・広報誌

住民協 ひろば

第９３号　（準備会から通算第 114 号）
発行日　　令和７年１月２１日
発行所　　逗子市久木２－１－１
　　久木小学校区住民自治協議会
発行人　　山崎　徳次郎

令和６年度校区総合防災訓練特集号

住民協ひろば・令和７年１月号は、令和６年１１月１７日に開催された、久小校区総合防災訓練（校区避難所運営訓練＋市防災訓練）の記録として、特集号といたします。

目次：

１．11・17 校区総合防災訓練（避難所運営訓練＋市防災訓練）の総括　石井達郎
２。訓練の全体構成と地域別訓練参加者のまとめ　小林寿志
３．地区防災拠点訓練　堀田昌希
４．WEB アンケート訓練　市防災課
５．地域の安否確認（被害状況確認）訓練　龍村敦子　新倉洋一　長嶋啓
６．無線による緊急情報連絡訓練　鈴木友行
７．避難所開設訓練　瓶子純一　松森豊　新倉洋一
８．避難所課題と寸劇　龍村敦子
９．防災グッズ（自助としての必要器材）　鈴木友行
１０．アンケート関係のまとめ　龍村敦子
１１．自由意見　山崎徳次郎　新倉洋一

注）12 月度役員会の記録は本誌２月号に掲載を予定します。

１．11・17 校区総合防災訓練（避難所運営訓練＋市防災訓練）の総括

石井　達郎（校区住民協事務局長）

11 月 17 日（日）に久木小学校に於いて久木小学校区地区「逗子市防災訓練」と「避難所運営訓練」が行われた。従来は幣難所の立ち上げ、運営等避難所に避難してきた人を想定した訓練であったが、昨年から発災時に多数を占める「在宅避難者」の安否確認、災害状況の把握等も行い、「地区防災拠点」を設置し各地域―地区防災拠点―逗子市災害対策本部と情報の連絡、確認を行い従来の避難所が「地域の総合防災本部」の機能を持つ組織建てとなった。当久木小学校区の動きを受けて、逗子市の他の小学校区に於いても在宅避難者をカバーすべく、従来の避難所に加え「地区防災拠点」を設置し「地域総合防災拠点」としての役割を担うものとして地域の防災訓練を行う事になり、当小学校区では簡単、迅速に地域の災害情報をいち早く把握する為のスマホを使った WEB アンケートを昨年導入したが、これも全小学校区で導入する事となった。

1.本年の防災訓練は避難所の受付、立ち上げ、マンホールトイレ、パテーションの設置等の「避難所運営訓練」.2.地域の自治会の安否確認・被災状況等確認、WEB アンケート情報入力訓練と防災無線を使った地区防災本部と地域との情報連携訓練。3.避難所の困りごと、自宅避難時の困りごと、住民・地区防災拠点・災害ボランティアセンター等の連携について参加者の理解を明確にするために寸劇形式の問題提起が行われた。

特記すべきは今年度から、能登地震発災時に携帯を使用した情報のやり取りが不可となった事から、発災時にも情報のやり取りを可能とする「防災無線」を各自治会と防災本部で備え、具体的に各地域、地区防災拠点、市災害対策本部と無線を使った、災害情報の確認、連絡、連携訓練を行った。又、参加者用に自主防災をより万全とする為の家庭用簡易トイレ、簡易蓄電池、防災用品等の展示も行った。

今回の防災訓練を総括すると多岐に亘る防災イベントとなったが、同時並行的に各種訓練連が行われる事が多く、参加者が訓練を俯瞰して把握しにくいものとなった印象があり、避難訓練の在り方、避難所運営会議等の在り方等も見直す時期にあるものと思われる。

2. 訓練の全体構成と地域別訓練参加者のまとめ

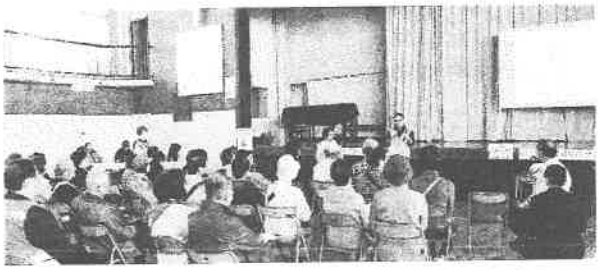
小林　寿志（校区避難所準備委員会代表）

令和６年度の防災訓練は、昨年度に引き続き、逗子市防災訓練と避難所運営訓練が同時開催となりました。

逗子市防災訓練は、★地区防災拠点設置と地域の無線による緊急連絡情報の集約、★災害時 WEB アンケート訓練、を行ない、地域での被災状況や足りない生活物資の状況を把握する等の訓練内容で、発災時の行政と地域の連携を深めることを目指しました。

避難所運営訓練としては、★避難所開設受付訓練(参加者名簿記帳・アンケート回収）、★パーテーション組立設置訓練(プライバシー保護・感染症対策)、★発電機　投光器設置訓練(停電時夜間照明対策)、★マンホールトイレ組立設置訓練(断水時のトイレ対策)を実施し、避難者の環境を守る訓練を行ないました。

自主防災組織・自治会訓練としては、★安否確認訓練(在宅避難者安否確認)、★無線機による情報連携訓練(地域の被災状況把握と行政への連絡)、★防災グッズ展示(在宅避難対策)を行ない、地域の連携を図りました。



今年度の訓練で新たな企画として、★寸劇で知る困りごと解決コーナーを設けて、避難所での困りごと、在宅避難時の困りごとの解決のヒントの提供、★逗子市災害ボランティアセンターとの情報の連携など、参加者も交えて様々な事例を討議いたしました。

最後に逗子市長桐ヶ谷覚様より防災訓練の総括をいただきました。「逗子市としても防災には今後も全力で取り組んでまいりますが、少ない職員で全市をカバーしていくのは難しいので、ぜひ地域としても訓練を通して住民を守ってほしい。」との話をいただきました。地域の住民は地域で守るためにも、防災訓練にはもっともっと多くの参加者が必要です。そのためには訓練の内容も今後検討していく必要があります。

---

§令和６年度久木小学校区総合防災訓練　参加者

参加名簿記帳者　　１０４人　　地域別は下表

久木連合町内会地域		山の根地域		ハイランド地域	
単位町内会	記帳者数	自治会	記帳者数	自治会	記帳者数
１丁目	３	山の根会	１	ハイランド自治会	１０
２丁目	６	山の根自治会	４４	合計	１０
３丁目	４	山の根親交会	６		
４丁目	３	合計	５１	地域外	
５丁目	１			桜山	２
６丁目	４：内 GH みずしな３			逗子	４
７丁目	４			新宿	３
９丁目	１			沼間	３
合計	２６			池子	１
				横浜市	２
				藤沢市	１
				学校関係	１
				合計	１７
記帳者総計	１０４				

（注）①　アンケート回収：６４枚　　②　スタンプラリー回収：５９枚

③　訓練主会場（久小体育館）への来場者が主で、下記の方々は参加名簿記帳者には含まれません。

★行政関係の参加者、　★地域で行われた安否確認訓練の参加者・無線による情報連絡関係者・体育館外で行われた訓練参加者の各一部の方。

住民協ひろば特別号第８号の一部訂正とお詫び

同誌、５頁記載のハイランド自治会・コグニサイズの開催日に誤りがありましたので、お詫びして次のように訂正いたします。正：毎月第２・４水曜日、誤：同木曜日

3．地区防災拠点

§久木小学校地区防災拠点班として訓練に参加して

堀田　昌希　（久木小学地区防災拠点班班長　逗子市福祉部次長
社会福祉課担当課長（地域共生担当）事務取扱）

「○○会です。安否確認世帯は 210 世帯。避難所世帯数は 28 世帯です。被災状況は、死者３名、重傷者６名、軽症者 22 名、全壊家屋８箇所、半壊家屋 25 箇所（後略）」訓練ではありますが、実際の災害を想定した深刻な被害情報が防災拠点班に寄せられます。

今回の訓練にあたり逗子市福祉部では、大規模地震の発生に際して災害時の情報の収集及び伝達、救援救護活動等を迅速かつ円滑に実施することを目的として開設される久木小学校地区防災拠点班の担当として、発災時に派遣を予定されている職員が訓練に参加させていただきました。

地区防災拠点班は今回の訓練において、発災直後の被害情報の収集・報告を主に担当いたしましたが、混乱した現場において様々な情報が相次いで寄せられ、それらを集約し市役所に設置される災害対策本部へ正確に報告することの難しさ。そして発災直後、特に 72 時間以内は貴重な人命の救助のために迅速な情報の収集・報告が必須であると痛感いたしました。今回、訓練に参加させていただいたことで、こうした情報伝達及び訓練の重要性について職員間及び地域の皆様と共有できたことは大きな収穫であったと思います。

今回は実施できませんでしたが、地区防災拠点班の職員は情報の収集・伝達のほか「現地活動員」として被災者の救出・救護や自主防災組織及び自治会との連絡調整を行う等、また「避難所要員」として防災備蓄品の提供や給食等避難者の生活支援の業務も担うこととなっております。

もし大地震が発生した際には、地区防災拠点班の職員は地域の皆さんと連携・協働のうえ、与えられた業務について精一杯努めてまいりますので、引き続きご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

あわせて、災害時こそ地域における支え合いが必要となります。そのために平時から誰一人取り残されることのない地域づくりに向けた取り組みを、皆様と一緒に進めていきたいと考えておりますのでご理解・ご協力をお願いいたします。

4．WEB アンケート訓練

市　防災課

§災害時 WEB アンケート訓練の反省と課題

（注：災害時 WEB アンケートとは、スマホを活用して各家庭の被害状況を、設問に答えるアンケート形式で支援先に情報提供する手段です。今回は発災７日後を想定しての回答です。）

1．会場アナウンスによる説明がなかったため、一般参加にはわからなかったのではないか。
2．平時から WEB アンケートに慣れる環境づくりが必要。
3．WEB アンケートの重要性が浸透していないため説明の工夫をする。
4．昨年参加してやり方がわかったからやらなくてもいいと思った人がいた可能性がある。
5．「災害時WEB アンケート」という名前だと（アンケートというと）自分事として捉えず回答しなくてもいいかという認識になってしまうのではないか。

★改善策

- 防災訓練のチラシ１枚のみではなく、アンケート用のチラシを作成する。
- 「災害時 WEB アンケート」のネーミングを変える。
- なぜ回答が必要か、その結果がどう使われるか工夫して説明をしていく。
- 広報として使えるツールをフルに使う。

§WEB アンケートデータ

- **回答者数総数**：111
- **地域別**：久木（８丁目以外）；13、久木８丁目：7、山の根１丁目：25.、山の根２丁目：43、山の根３丁目：18、その他：5
- **年齢別**：80 代：9，70 代：19，60 代：32，50 代：31，40 代：14、30 代：8，20 代：3
- **在宅避難、続けることができますか？**：はい：95、いいえ：1、わからない：15
- **ライフラインが止まった時の避難先**：在宅で避難：79、避難所に：22、市街の親戚知人宅：3、不明：13
- **不足している物資**：特にない：57、飲料水：41、米：29、トイレ：18、パン：15・・・上位５項目

・ライフラインについて；

	電気	ガス	水道
OK	92	84	92
NG	19	27	19

・自宅の状況；

	トイレ	風呂	冷暖房	寝室	冷蔵庫
OK	94	84	91	105	92
NG	17	27	20	6	19

・帰宅困難者数；いない：64、一人：31、二人：12，三人10，四人：0、六人以上：１人
・アンケートを知るきっかけ；訓練チラシ：６９、自治会から：５４、市広報誌：１０、友人知人から：４
・個人情報の入力に賛同するか；賛同する：76、どちらかといえば賛同：35、あまり賛同しない：4、賛同しない：3

---

§災害時WEBアンケートによる意見等

・避難する際にペットが一緒か、などの質問を追加していただき、ペットと一緒に避難所にいける体制もご検討いただきたい。
・元々ガスを生活に使用していないのでガスの回答を求められても回答できない。
・実体験の記載があれば良い
・年一回のこの防災訓練も、毎回自宅前での点呼では意味がないと思います。時代に即して、SNSを利用するかとも考えた方が良いと思います。
・それぞれで頑張りましょう
・特になし
・通信回線が保全されていることが前提となるので、各通信会社に対し市から通信施設の安定稼働を要求するとともに、自治体でも現況を把握しておくべきかも。自宅敷地内にNTTの設備があります。アンテナの所在地のマップは市でも把握しておくべきかも。訓練なので、質問数をもう少し減らした方が答えやすい（参加者の手間が減る）と思います。
・高齢者対策(携帯不所持),実際に発災した時にどうなるのか、疑問に感じました。今回の訓練は貴重だと思います。
・担当者のかたのご尽力に感謝します。
・そもそも携帯が使えるかわからないので、在宅避難の場合対面や紙で伝える必要があるかなと思った。それをどうやるかが課題だと思った。
・班長を経験し、高齢の方がスマホを使ったアンケートへの抵抗やハードルが高いと感じたため、認知とサポートができる取り組みがあるといいなと感じました。
・小さな気づきです。ライフラインの確認において、その情報を何に使用されるかによりますが、オール電化家庭ではガス利用はありません。同じエリアのライフライン確認に使用する目的があるとすると、問題無しの回答は誤認する事になるのではないかと気になりました。目的がそこにないのであれば、このままでも良いかと思います。
・世帯数が多い久木で避難所は足りないのでは？トイレは使えるのか？
・首都直下地震が起きて避難所がすぐ開設されますか？
・訓練に出たが、先ず久木小学校への入り方（小さいもんの鍵が閉まってた）がわからなかった、案内の紙でも外に貼って欲しかった。なかにはいってもボランティアの方々も何をすれば良いのかわからない方々もたくさんいて、誰に聞けば良いのかわかりませんでした。本当に被災に会った時、家にいてまずどこに連絡すればいいのか、誰に助けを求めれば良いのか、アナログの世界でどうすれば良いのかのリアルな形がわからず、不安になりました。としよりと病気の家族もいますが、介護対象にも、してもらえないたちなので、相談をしたいです。
・予想して書くのは難しいです

5．地域の安否確認（被害状況確認）訓練

§山の根自治会全世帯の安否確認訓練

龍村　敦子（山の根自治会）

山の根自治会はなぜ毎年安否確認訓練をやるの？
避難所設置訓練と同日に山の根自治会全世帯の安否確認訓練を実施して３年目となりました。安否確認の基本形は発災時９時（今年の場合）に班長または向こう三軒両隣りの誰かが各戸の安否の確認に回る。住民は９時に無事であることを班長に知らせるために玄関または門に出て無事を伝える。玄関に現れなかった家庭には班長はチャイムを鳴らす。(訓練なので電気は通じている）この基本形をベースに各班の特性を活かして、手ぬぐい、タオル、マグネットな

どのグッズで合図するのが応用編です。
訓練なのでほぼ全世帯が家にいて、家族も一緒で、安否確認は容易にでき、全員無事であるという訓練です。しかし、本当の大地震の場合は、こんなにうまい条件で発災するとは思えません。平日の真昼間だったら・・・お父さんお母さんは職場で、子どもは保育園か学校か、おじいさんおばあさんはリハビリ中かはたまたスーパーで買い物か・・・まず真っ先に自分の安全確保と家族の安否確認にやっきとなるでしょう。班の安否確認どころではない。・・が、しかし、この毎年繰り返される安否確認訓練が身についている私たちは落ち着きを取り戻した時点で、それが同日か翌日かはわかりませんが、班のみんなに自分の状況を知らせよう、または知らなくちゃと思うでしょう。玄関のノブか郵便ポストにあきらかに「しるし」と思われる手ぬぐいやタオルを巻き付けるかもしれません。「無事です」と書いた札を出すかもしれません。それを班員はみつけるでしょう。あるいは各戸のドアをたたいて（チャイムが鳴らない）様子を聞きまわる人がいるでしょう。
班の安否や被災状況がわかったところから日常生活のための救援支援活動がはじまります。毎年班長さんの力をかりて実施する全世帯の安否確認訓練は私たちが災害に合ったときの行動の習慣づけなのです。毎年繰り返すこと、これが大切だと思っています。次年度も班の知恵と工夫で災害時の安心に備えたいと思います。

§久木連合町内会の安否確認訓練

新倉　洋一（久木連合町内会）

今回は３丁目の22班の中より４班を選んで、安否確認訓練を実施した。本来は22班すべてを実施したいのですが、各班の班長さんが高齢のためしかたなく、町内会役員が所属している４班を選び実施した。事前に黄色いタオル、説明文のパンフレット等を手配、作成し町内会役員の方が町内会会員の方の家を　一軒一軒回り、説明しながら、回った。安否確認の方法は異常がない時は外から目立つ所に黄色いタオルを掲示し、黄色いタオルが掲示されていない時は異常と判断し訪問し確認する。この方法で全戸もれなく実施した。
その結果を集計し自主防災部連絡班担当者に報告して最後に地区防災拠点担当者に報告する。
今後の課題は町内会会員の高齢化の問題をみんなで一緒に真摯に考えて対応しなければならないと痛感しております。

§逗子ハイランド自治会の安否確認訓練

長嶋　啓（逗子ハイランド自治会）

当日はハイランド自治会は市との協定に基づき“風の丘“”朝日が丘“つつじが丘”“夕陽台“”西が丘“の５公園の定期清掃日に当っており午前９時から実施しました。それぞれ担当するエリアが決められていますので、各公園を巡回しそのエリアの情報を防災無線により自治会館への連絡する訓練を行いました。基本的には各エリアの安否確認は組長、区長から常任区長さんを経由して自治会に届けられるのですが、防災無線も活用できることを確認しました。そのもととなる情報収集について今後取り組んでいきます。

６．無線による緊急情報連絡訓練

鈴木　友行（無線運用管理者）

自主防災組織・自治会訓練の中で行われた情報連携訓練は、住民協加入自治会・町内会に今年10月に購入されたデジタル簡易無線機により交信が行われた。
従来に使用されたアナログ式簡易無線機は、12月1日以降は使用できないことから新規購入したデジタル簡易無線機により行われました
簡易無線機の活用については、災害情報を一斉同時に通信できることにより、必要な対応ができることとなります。
一部地域では谷戸の影響と思われますが、電波の到達不可地点が認められたことから、被害状況の把握のために他の通信方法を考える必要があり、今後の課題であると思います。
実際、災害発生時の混乱で思うように活用できるかが問題でありますが、そのためにも普段から繰り返し訓練して慣れることが必要であります。

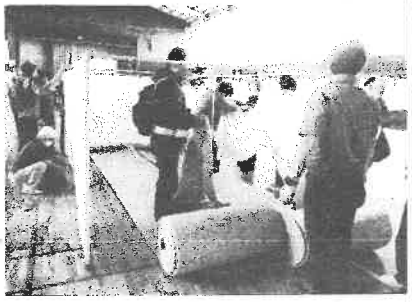
また、各地域で無線機担当者を決めていると思いますが、いざという時は誰が無線機を操作するか分かりません。そのためにも誰でもが無線機の操作に慣れていなければならないと思います。
地域で集められた被害状況の情報を地区防災拠点へと無線機により報告することで、迅速な災害復旧をすることであります。
行政と地域住民との情報を連携することで、スムーズな被害者支援につなげることができるものと思います。

7．避難所開設訓練

§間仕切り組立

瓶子　純一（山の根親交会）

山の根親交会ではパーテーションの設置訓練を担当しました。親交会からの参加者は６人。パーテーションの設置は親交会では初めてのことです。パーツは似ているものが多く、差し込む向きもあって製作は大変でした。親交会の参加者が少なく完成できるか不安でしたが、来場されたお客様たちが協力してくれて、一緒になって組み立てました。実際に大災害が起これば、見ず知らずの人たちと行動を共にしなくてはならなくなります。知らない人同士が声を掛け合って設置ができたことはとてもよかったと思います。今回は１台だけの設置でしたが、次回はもっと大勢の人たちで複数台設置する訓練ができればと思います。



§発電機操作と照明

松森　豊（逗子ハイランド自治会）

今回の避難所訓練には、久木八丁目ハイランド自治会防災部の女性３名が参加しスタンプラリーの参加者に発電機と照明器具の操作説明を行いました。実は彼女らは発電機なるものに触れたのは当日の朝が初めてでした。避難所訓練が始まる前の30分間に発電機の仕組みと操作方法の説明を受け、ぶっつけ本番で来訪者への発電機の操作の説明を行うと云う任をこなしたわけです。でもこれは決して無謀な事ではなく、実際の災害場面での避難所運営には好むと好まざるとに関わらず、誰しもが初めての経験を克服して事を為さなければならないので、ハイランド自治会の防災部長としては、当部員達に良い機会を与えて頂いたと思います。また本人達も普段の日常生活では得られないであろう経験ができて良かったと申しておりました。久小住民協の方々が周到に準備してこられた今回の避難訓練に当ハイランド自治会防災部も多少なりとも貢献できた事を嬉しく存じます。

§マンホールトイレ

新倉　洋一（久木連合町内会）

マンホールトイレの設置訓練は過去に数回行なっているので大きなトラブルはなくおこなったが、細かい部品（ボルトナット類）が前回時の管理が悪く正規の場所収まらず、多少の時間を費やした。

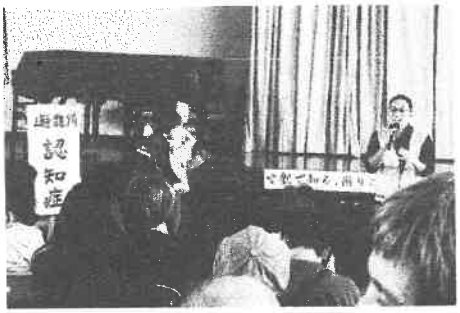
8．避難所課題と寸劇

龍村　敦子（山の根自治会）

なぜ寸劇を避難所設置訓練でやったの？

大災害が起き、避難所でしばらく生活しなければならなくなったとき「避難所でおこりうる困りごと」と大混乱の地域の「在宅でおこりうる困りごと」はこれまでの多くの被災地の情報を見聞きしている私たちにはある程度想像することはできています。その困りごとは本当に大変な困りごとで災害関連死をも引き起こしかねません。それらの困りごとのほんの１部を６景の寸劇でご覧いただき、これからの防災学習の材料に発展してもらえたらというかすかな希望につないで実践しました。

避難所では１、車いす使用者の生活。２、新生児と家族の生活。３、認知症の対応。在宅生活では１、部屋が片付けられない高齢者のサポート。２、一人暮し高齢男性の生活のしづらさ。３、高齢者の物資不足の支援。の全６景です。夫々の役を地域の皆さんに演じていただきました。真に迫っていてまるで本当におこっていることのようでした。潜在的にくすぶっている、しかし、どこから手をつけていいかわからない災害時の生活支援を文章内の想像ではなく「目」で見てもらうことによって見た人の記憶にとどまったのではないかと思います。やりっぱなし寸劇ではなく、これから平常時にそれぞれの地域で丁寧に学習していただきたい。車いすの場面からは身体障害だけではない、聴覚、視覚、知的の障害への理解が必要でしょうし、平常時の近隣の交流で災害時の困りごとを推し量ることもできるでしょう。今後の取り組みを考えましょう。



9．防災グッズ（自助としての必要器材）

鈴木　友行（防災士）

§家庭内防災品展示一覧

備品名	活用方法
○モバイルバッテリー	停電時にスマホ充電
○革手袋	割れたガラス等をつかむため使用
○ガラ袋	割れたガラスを入れる
○蓄電池	スマホ充電用・小電力機器用
○ソーラーパネル	スマホ充電用・蓄電池充電用
○手回し充電ラジオ・ライト	手回しで発電できる
○簡易トイレ・携帯トイレ	下水管が破損した時
○アルファ米・レトルト食品	お湯や水で食べられ、レトルトはお湯で温める
○救急用品	鎮痛剤・胃薬・消毒液・体温計・包帯等
○照明ライト・ヘッドライト	両手が使えるヘッドライト
○布テープ・軍手	各種シートを留めるテープ
○カイロ・瞬間冷却剤	季節に応じていく
○ブルーシート・クッションシート	割れたガラス窓に張るブルーシート
○飲料水　（ペットボトル）	１人１日分２リットル×３日分
○カセットガスコンロ	ガスが停止時、手軽に湯沸し等ができる
○エアーベット	車中泊用
○寝袋	車中泊用
○ラップ・アルミホイル	お皿に被せることで繰り返し使える
○保温アルミシート	暖房のない時、体温の低下を抑える
○乾電池	使用期限を確認し、必要なサイズを揃える

※　自宅で備える防災用品は、家族の状況に応じて異なります。　例えば、乳児のいる家庭では紙おむつや液体ミルク等を備える。
基本は、電気・ガス・下水等不通になった時のことを考える。また、近隣には、余裕のある備蓄品を分け与え、互いに融通し合うことで助け合える。

１０．アンケート関係

§アンケートのまとめ

項目		男性	女性	合計
回答者年齢	30代以下	0	0	0
	40代	1	1	2
	50代	7	5	12
	60代	6	6	12
	70代	10	11	21
	80代以上	13	3	16
	合計	37	26	63
訓練を知ったのは	市掲示板	2	3	5
	自治会掲示板	16	11	27
	回覧	15	12	27
	口コミ	2	3	5
	その他	9	2	11
訓練の参加経験	初めて	6	13	19
	参加経験あり	31	12	43
地区防災拠点と無線訓練の見学	見学した	16	17	33
	見学しない	4	0	4
	気付かなかった	0	5	5
家族間で被災時の行動・連絡方法を話し合っている	はい	14	16	30
	いいえ	11	8	19
非常時持ち出しを準備している	はい	17	22	39
	いいえ	6	4	10

水・食料・必要物資の備蓄	している	１８	１４	３２
	していない	５	２	７
津波の避難路・避難場所の周知・確認	している	１６	２０	３６
	していない	７	６	１３
避難所生活の心配：１３項目中で５項目選択した中の上位５項目（５項目以外では、プライバシー・感染症・ペット・入浴・ごみ処理・洗濯がこの順であります。）	トイレ	１５	２２	３７
	食料・飲料水の確保	１０	２６	３６
	暑さ・寒さ対策	１２	１９	３１
	自宅の状態：盗難火災	１４	１３	２７
	体調不良（病気・ケガ）	１０	１２	２２
地域が取り組むべき防災減災対策で大切なこと:自由記述	別項（アンケート結果から考えられること）でまとめ			

§アンケート結果から考えられること

龍村　敦子（山の根自治会）

訓練参加者の内記帳者は 104人です。内訳は別表をご覧ください。

何十年も続いている「避難所設置運営訓練」（その都度名称がかわることはある）ですが、年とともに様変わりしてきています。毎月開かれる準備委員会もメンバーの交代や社会情勢にあわせて話す内容も変化しています。避難所開設のマニュアル作成、手順書の整備はもとより、住民への防災啓発に関するプログラムなどありとあらゆるメニューで試行錯誤の数十年が経過する中、日本中のあちこちで地震や台風、大雨による複合的な大災害が勃発するにつけ、地域防災は行政と地域住民が両輪となって対策をねらなければならないのだと私たちは理解し始めました。その過程での避難所設置訓練は行政と住民との連携訓練へと流れが作られるのは必然のように感じます。

アンケート結果の 104人の参加者の自由記述、防災減災への取り組みの項目にも住民の防災意識が「我が事」と捉えられているように読み取れます。下記はそれをまとめたものです。これらの内容は平常時にこそやっておくべき対策です。

・隣近所との連携　・日ごろからの訓練　・全家庭参加型の避難訓練　・年代関係なく災害の備えについての話し合い　・困りごとの個々のヒアリング　・避難所のマニュアルの整備とそれに基づく訓練　・平素からのネットワーク、声掛けなどの横のつながり　・災害時の訪問医療、看護の提供　・Webアンケート実施にむけての高齢者対応　・障がい者対応と理解　など

参加者の数字 104人は久小校区全住民の代表です。そして自由記述は全住民の代弁です。

次年度の避難所設置訓練にむけて平常時にできる防災対策をさらに一歩進めて実践したいですね。

１１．自由意見

§2024年４月３日台湾花蓮地震と避難所

山﨑　徳次郎（校区住民協　代表）

台湾の東に位置する花蓮県の沖合でローカル・マグニチュウド7．2、（気象庁M7.7）の大地震が4月3日7時58分（日本標準時8時58分）に発生し、震源に近い花蓮県では震度6強を観測。台湾では1999年の921大地震以降で最も大きな地震だったそうです。

4月3日の地震については朝のテレビ・ニュースで報道されましたのでご存知と思います。この地震による死者は18名と1、145人の負傷者。4月5日現在建物の損壊は786件。台湾電力によると全土で87，000件が停電しそのうち14，833件は台中市で5，306件は地震から25分以内に回復したとしています。

4月3日の夕方、この地震についての続報で避難所に数個のテントが整然と設置されている映像が流されました。日本と単純には比較出来ませんが避難所の設営は地震発生から4時間後にはほぼ整い被災者を受け入れているそうです。

台湾当局はスフィア基準に準じた処置としています。スフィア基準とは被災者の権利と被災者支援の最低基準を定めた国際基準で石破内閣は防災省を設立しスフィア基準を満たすことを目的にしています。

今後は国指導の避難所運営になっていくのでしょうか。

§案内係の設置

新倉　洋一（久木連合町内会）

会場内の進捗状況を案内する案内係を配置すれば、初めての人には非常にわかりやすいと思われます。

編集：鈴木　為之